

平成26年度 第1回にしお男女共同参画市民会議 会議報告書

日時	平成26年11月14日(金) 午後1時30分～午後3時10分	
場所	西尾市役所2階 22会議室	
委員	出席者	にしお男女共同参画市民会議委員：赤堀正光始め9名 アドバイザー：中京大学教授 柳本 祐加子氏
	欠席者	浅井聡美
事務局	地域振興部次長兼地域支援協働課長、岩瀬主任主査、臨時職員 都築、木下	

- 1 あいさつ（山田次長）
- 2 議 題
 - (1) 委員紹介 ※委嘱状交付（略式）
 - (2) にしお男女共同参画市民会議について
 - (3) 会長、副会長の選出
 - (4) 第2次男女共同参画プランについて
- 3 その他

■会議概要

(1) 委員紹介

<資料1にしお男女共同参画市民会議委員名簿 >

初めての会議であるため、各委員による簡単な自己紹介を行う。

中京大学教授である柳本祐加子氏には、昨年度に引き続き、市民会議のアドバイザーとして助言いただく立場で参加。

※委員10名の内、新規の方は6名

(2) にしお男女共同参画市民会議について

<資料2にしお男女共同参画市民会議設置要綱・参考資料1西尾市審議会等の会議の公開に関する要綱 >

○第1条・・・設置目的について

○第2条・・・所掌事務について

○第3条・・・委員の任期について

※平成26年11月14日から平成29年3月31日まで

○第4条・・・会長、副会長選出について

○会議公開に関する件・・・会議は公開（平成25年6月28日の会議で決定）

※会議の公開に関する要綱は、平成25年4月1日より

(3) 会長、副会長の選出

<資料2にしお男女共同参画市民会議設置要綱>

要綱第4条の規定に基づき、会長、副会長の選出を行った。立候補が無かったため、昨年度

までの3年間で第2次プランの策定に貢献された「加藤晴子氏」を会長に、「大見耕児氏」を副会長にという事務局案を提示。満場一致。

会長・・・加藤晴子氏 副会長・・・大見耕児氏

【加藤会長】

新しい委員の皆さんも仲間入りし、第2次プランを推進していくために、活発な意見交換を行っていきたい。市職員や教員における女性の登用に代表される男女共同参画については、遅々として進まない状況ではあるが、市民が暮らしやすいまちづくりのためには、男女の視点がとても重要。第2次プランも策定され、あらたなまちづくりのスタートとなる。実効性のあるプランとしたので、信念を持って活動を続けていきたい旨を述べられた。

【大見副会長】

安倍内閣は、平成30年度までに管理職に占める女性の割合を30%と目標を掲げているが、現場ではなかなか厳しい状況。女性の登用率アップには、働く女性をバックアップする施策が必要。例えば、育児休業明けの職員が安心して保育園に預けることができるように環境整備など。男女共同参画社会の実現に向けて、ボトムアップできる仕組みを確立したい。そのためには、この市民会議はとても重要な意味を持つと述べられた。

（4）第2次西尾市男女共同参画プランについて

○第2次プランの概要 <プランの概要版を使った説明>

事務局より、第2次プランの概要説明をする前に、男女共同参画が取り組まれるようになった背景や法律、課題などを分かりやすくまとめたビデオを聴講。その後、プランの概要を説明。各種施策の中でも、特徴的な3点について説明。

※内閣府所蔵「男女共同参画社会基本法のあらまし」ビデオ上映：20分

<中京大学 柳本教授> ※柳本先生にビデオの補足説明をおこなっていただいた。

少子高齢化が加速度的に進む中で、労働人口の減少は大きな問題。多様な人材を活用することは、経済社会の活性化に必要不可欠。そのためには、女性が活躍できる社会経済の構築が必要。男性も女性も、「職場で」、「地域社会で」、「家庭で」選択できるような多様なライフスタイルが望まれる。

我が国における「男女共同参画社会基本法」の制定には、1975年、国連が開催した「国際婦人年世界会議」がとても影響している。遅々として進まない状況ではあるが、特に子育て支援策については、近年大きな動きがでるなど、少しずつ前に進んでいる。平成11年に「男女共同参画社会基本法」が制定され、まだ15年程しか経過していない。世界では、男女共同参画の推進に向けて、息の長い活動を地道に行っている。

西尾市においても、男女の視点をしっかり汲み取り、第2次プランを推進、啓発していきましょうと述べられた。

○第2次プラン施策体系表及び各課におけるプランの進捗状況を説明

<資料3、資料4>

資料3・・・各事業の具体的な取り組み内容

※黄色で着色部分は、新規事業

資料4・・・各事業の具体的な取り組み内容を担当課別にまとめたもの

※プラン策定が26年3月、半年経過した26年9月末時点の進捗状況を調査した結果の一覧

<事務局より>

今回策定した「第2次西尾市男女共同参画プラン」は、より実効性のある計画にしたいという考えをもとに、議論を重ね策定。今年度は、第2次プランが策定された初年度ということもあり、プランの推進元年として位置づけている。男女共同参画社会に実現に向けて、全庁的な取り組みとして、プランの積極的な推進・啓発に努めていくよう市役所内の関係各課の管理職及びワーキングチームスタッフで構成された「西尾市男女共同参画推進委員会」を設置し、組織全体で取り組んでいく旨を庁舎内の委員に伝えている。

○第1回会議を終えて

<藤田>

教員社会では、特に小学校では、女性が頑張っていないと成り立って行かない。その点から考えると、女性教員は頑張っているように感じるが、社会全体で見ると、まだまだ男女共同参画社会の実現に向けては、努力が必要であることを感じた。

<渡邊>

ばらネットの代表として参加した。ばらネットセミナーを開催する際、多くの方々に参加してもらいたいが、若い世代の方の参加が少ない。もっとPRしていく必要があると感じている。何事にも、どんどん情報を発信し、周知していくことが重要であると感じる。

<鈴木>

旧吉良町時代、生涯学習課より男女共同参画に関する会議の立ち上げの話があったが、合併と同時期くらいに話がなくなってしまった。県の男女共同参画セミナーに参加した経験があるので、「何か役に立つことができれば」と思っていたところで、この会議委員の話があった。皆さんと共に勉強し学んでいきたい。

<星野>

西尾子育てサークル協議会の代表として参加した。育てに関する活動を行っている中で感じることは、大人への啓発は、既に価値観などが固まっていたり難しい面も多々ある。小さい時期から教育（学習）していくことはとても重要。出前講座などを利用し、子供たちへ男女共同参画について啓発していきたい。

<嶋崎>

昨年度に引き続き委員をやらせていただく。学ぶべきことがまだまだたくさんあると思っている。女性が活躍する社会の実現に向けて、キーワードは「自立」であると思う。地域社会の中では、協働の精神がとても大切である。それに向けてまず、個々が自立していくためには、何をしなければいけないのかということを考える機会にしたい。

<大嶋>

自分が今まで生きてきた中、また、就職して社会人になってからでも、男女差別などを感じたことがあまりない。ビデオを聴講し、社会全般においては、男女共同参画の推進が図られるようになった背景などを少し驚いている。

自分は、今、子育て真っ最中である。次世代の子供たちが幸せに暮らすための方策を考えていく際、どんな視点を持っていたら良いか、この会議の中で見出していきたい。

<赤堀>

自営業であるため、家族みんなが協力することが当たり前になっている。男女共同参画に関するビデオを見て、男女差別などの問題から現在に至るまでの過程、法律ができるまでの背景など、とても勉強になった。西尾市が住みやすいまちになるよう、この会議で勉強していきたい。

3 その他

次回の市民会議：27年度5月頃を予定

※第2次プランの推進、啓発等に係る26年度末実績がまとまりしだい開催予定。